

# 熊本赤十字病院が担う 役割について

令和5年7月 熊本赤十字病院

# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 基本理念、基本方針、病院概要

### 基本理念

### 人道・博愛・奉仕の実践

私たちは、赤十字精神のもと、医療や救援を通じて人と社会に寄り添います。

### 基本方針

救急医療	救急医療を私たちの原点としてとらえ、全ての人に手を差し伸べます。
高度医療	診療の専門性を高め、時代に即した安全で質の高い医療を提供します。
人材育成	教育・研修を推進し、人間性豊かで将来を担う医療人を育成します。
地域連携	地域全体で協力し、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献します。
医療救援	地球的視野で災禍を見つめ、積極的に医療救援活動に取り組みます。
魅力創出	働きがいのある職場づくりを通して、ぬくもりのある病院を目指します。

### 使命

高度急性期を担う総合病院として、地域住民が安心して暮らせる社会に貢献します。

### ・病床数

490床

### ・診療科

32科

内科、腎臓内科、糖尿病内科、リウマチ科、血液・腫瘍内科、精神腫瘍科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

### ・入院料等

急性期一般入院料1、救命救急入院料1、特定集中治療室管理料2、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児入院医療管理料1、小児特定集中治療室管理料、急性期充実体制加算 等

### ・職員数

1,545.4人（医師234.3人 看護師726人 専門職196.4人 事務388.7人）※常勤換算  
※研修医含む

※2023年6月1日現在

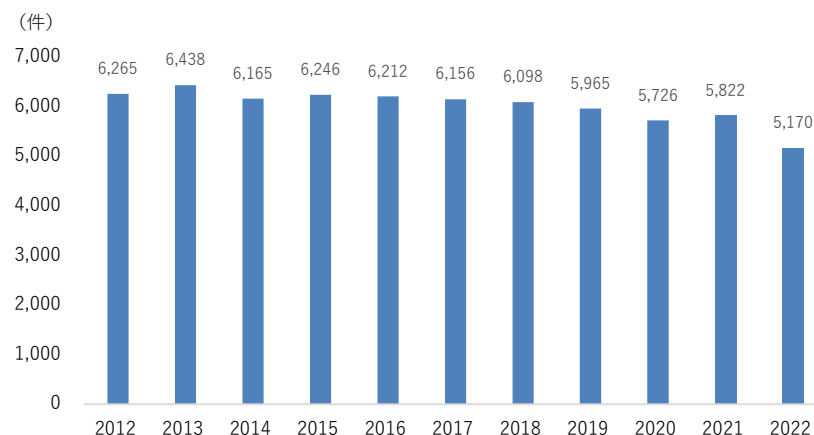
# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 診療実績 1

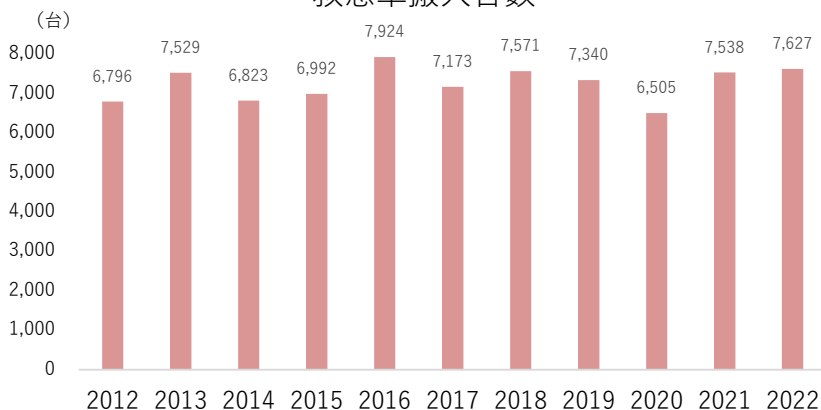
新入院患者数 及び 平均在院日数



手術数



救急車搬入台数



- 新入院患者総数 15,066人/年
- 入院患者延数 145,820人/年
- 外来患者延数 243,836人/年  
(救急患者数 50,002人/年)
- 手術症例数 5,170件/年
- 病床稼働率 90.0%
- 平均在院日数 9.7日

※2022年度実績

# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 診療実績 2

	熊本赤十字病院	熊本大学病院	済生会熊本病院	国立熊本医療C	熊本市民病院	熊本中央病院	福田病院	くまもと森都総合病院	熊本地域医療C	高野病院	熊本機能病院	熊本整形外科病院	くわみず病院	熊本市立植木病院	成尾整形外科病院	江南病院
01神経	1,412	1,052	1,504	658	381	46	0	13	74	2	87	2	117	18	6	41
02眼科	222	1,221	4	357	860	605	3	551	1	0	9	0	0	0	0	0
03耳鼻	505	537	40	186	399	37	2	16	242	1	24	0	267	14	0	94
04呼吸器	1,479	1,502	1,551	759	573	1,198	0	61	665	7	37	4	92	86	0	79
05循環器	1,910	1,781	3,172	910	305	1,026	0	39	100	0	232	1	57	141	0	44
06消化器	3,373	3,357	3,322	2,514	1,278	1,160	2	1,118	1,862	2,536	25	1	63	217	0	57
07筋骨格	433	1,105	271	518	428	651	1	169	15	7	519	618	3	12	504	38
08皮膚	185	734	62	318	172	24	0	158	60	45	76	8	13	3	2	4
09乳房	153	362	5	27	72	37	0	1,195	33	0	0	0	0	0	0	0
10内分泌	261	742	190	359	144	291	0	32	31	2	21	2	16	14	0	28
11腎尿路	745	945	1,072	1,715	731	1,549	1	43	63	18	19	3	35	21	0	43
12女性器	1,383	1,542	20	760	870	1	4,095	455	4	5	0	0	0	1	0	0
13血液	394	803	94	818	236	52	1	411	38	4	2	1	5	5	0	4
14新生児	268	399	29	32	577	20	917	5	21	1	189	4	0	0	1	1
15小児	200	1	0	7	7	34	3	0	31	0	0	0	0	0	0	0
16外傷	1,100	381	1,379	880	705	172	0	218	34	3	615	1,178	12	91	75	48
17精神	17	3	6	29	5	4	0	25	1	0	5	0	4	4	0	5
18その他	400	193	204	223	77	422	5	42	78	21	18	26	17	3	6	12
全体	14,440	16,660	12,925	11,070	7,820	7,329	5,030	4,551	3,353	2,652	1,878	1,848	701	630	594	498

※令和3年度DPC導入の影響評価にかかる調査「退院患者調査」の結果報告を基に作成

# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 診療科の構成（32科）

### 内科系部門

内科  
腎臓内科  
糖尿病内科  
リウマチ科  
血液・腫瘍内科  
呼吸器内科  
消化器内科  
放射線治療科

### 救急・災害医療

救急科  
(外傷外科部)  
(国際医療救援部)

### 周産期・小児医療

産婦人科  
小児科  
小児外科

### 脳卒中・急性心筋梗塞

脳神経内科  
脳神経外科  
循環器内科  
心臓血管外科

### 外科系部門

外科  
呼吸器外科  
乳腺内分泌外科  
整形外科  
形成外科  
皮膚科  
泌尿器科  
眼科  
耳鼻いんこう科  
歯科  
歯科口腔外科

### 中央診療部門

放射線科、麻酔科、病理診断科、リハビリテーション科、精神腫瘍科

# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 主な取組み（5疾病・5事業）

脳卒中/心血管疾患/がん/糖尿病/精神疾患

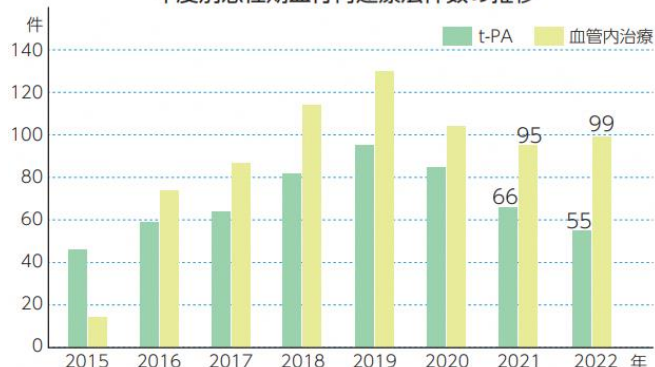
### 脳卒中

- 脳卒中急性期拠点医療機関
- 一次脳卒中センターコア（日本脳卒中学会）
- SCU（15床）を有する脳卒中センター
- 全国有数の急性期脳梗塞の血管内治療件数とそれを支える診療システム

年度別 入院患者数の推移



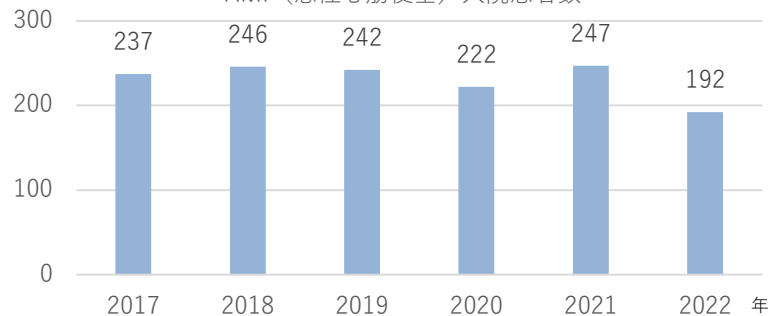
年度別急性期血行再建療法件数の推移



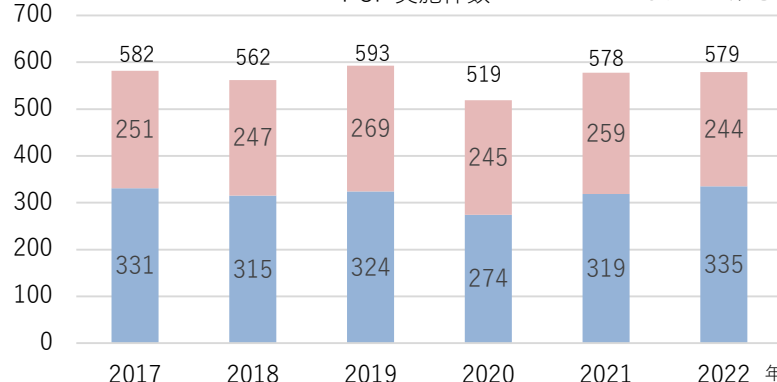
### 心筋梗塞等の心血管疾患

- 心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院
- 緊急性の高いAMI（急性心筋梗塞）等に対する緊急PCI（経皮的冠動脈インターベンション）を多数実施
- 植込型補助人工心臓実施施設（成人）

AMI（急性心筋梗塞）入院患者数



PCI 実施件数



# 1. 熊本赤十字病院の現状

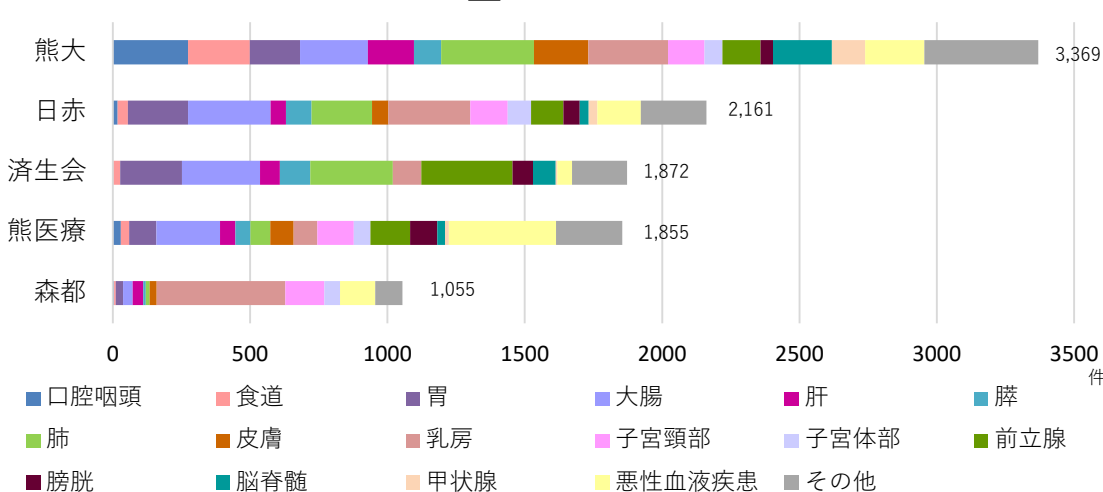
## 主な取組み（5疾病・5事業）

脳卒中/心血管疾患/がん/糖尿病/精神疾患

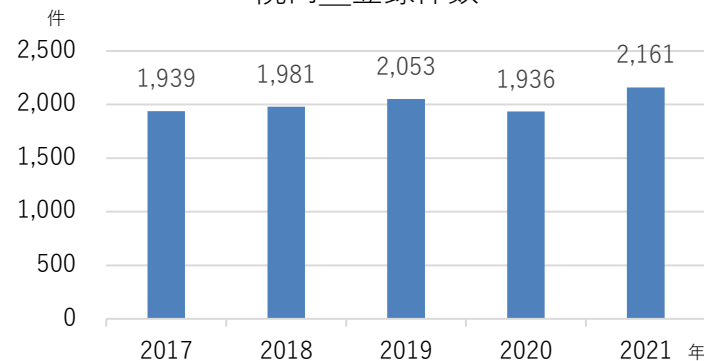
### がん

- 地域がん診療連携拠点病院
- 2022年11月、がん集学的治療センターを設置、センターを中心に各診療科や職種の枠組みを越えたチームとなり、病院全体で集学的がん診療に対応
- 2023年4月、遺伝カウンセリング外来を開設

施設別\_\_腫瘍部位別登録件数



院内\_\_登録件数



※熊本県がん診療連携協議会幹事会がん登録部会「熊本県院内がん登録データに係る統計」より

### 糖尿病

- 糖尿病性腎不全症例の腎移植推進
- CKD対策

### 精神疾患

- 精神腫瘍医 1 名、公認心理師 2 名によるがん患者、救急患者への精神的サポート

# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 主な取組み（5疾病・5事業）

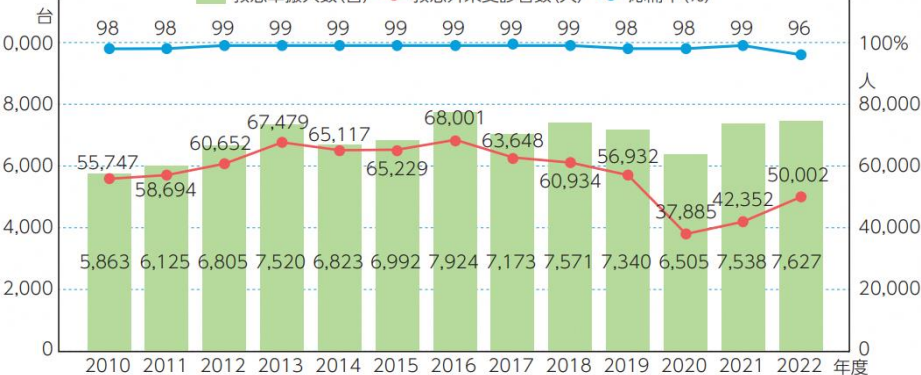
救急/災害/小児/周産期/へき地

### 救急医療

- 昭和55年、県内初の**救命救急センター**に指定されて以来、「断らない救急」を基本理念にトップクラスの救急車搬入数
- **熊本県ドクターヘリ基地病院**
- 2023年4月に病院前救急診療科と集中治療科を新設し、プレホスピタル～集中治療管理まで「つなげる」体制を強化

救急車搬入・救急外来受診者・応需率の推移

■ 救急車搬入数(台) ● 救急外来受診者数(人) ◆ 応需率(%)



### 災害医療

- **基幹災害拠点病院/熊本DMAT指定病院**
- 国内外問わず、地球上でのあらゆる災禍に救護員を派遣

#### 【国内における災害医療等】

- H23.3 東日本大震災（宮城県石巻市を中心に活動）
- H28.4 熊本地震（南阿蘇、西原、益城を中心に活動）
- R 1.8 九州北部豪雨災害
- R 2.7 熊本豪雨災害（人吉・球磨、芦北・水俣）

#### 【国外における災害医療等】

##### 事業実績

- 派遣国 43ヶ国
- ・イラク医療技術交流
  - ・南スーダン紛争救援
  - ・ Bangladesh 避難民支援
  - ・ジンバブエHIV/AIDS支援
  - ・フィリピン中部台風救援
  - ・ハイチ大地震救援
  - ・スマトラ島沖地震救援 など

##### 派遣者数 ※令和5年3月31日時点

医師	128名
看護師・助産師	76名
薬剤師	3名
放射線技師	20名
事務・技術職	67名
<b>合計</b>	<b>294名</b>



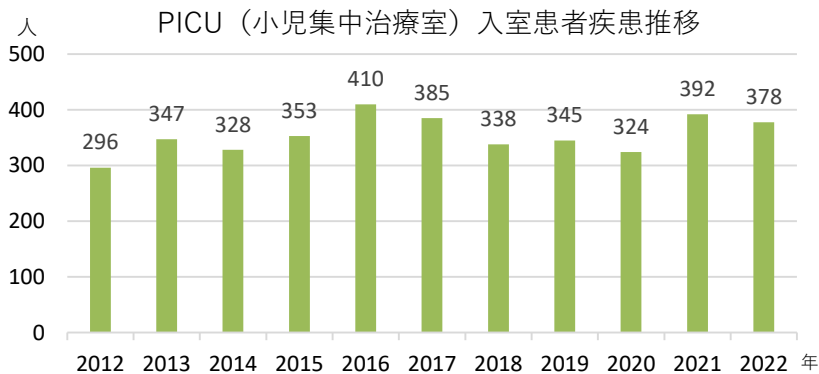
# 1. 熊本赤十字病院の現状

## 主な取組み（5疾病・5事業）

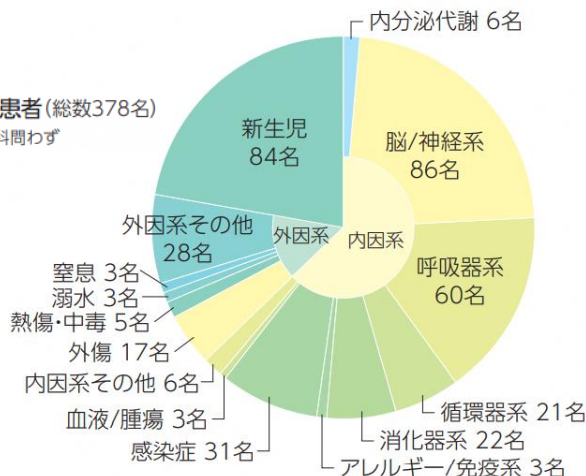
救急/災害/小児/周産期/へき地

### 小児医療

- **小児救命救急センターと小児集中治療室 (PICU)を併設し、24時間・365日様々な小児救急患者の受入が可能**

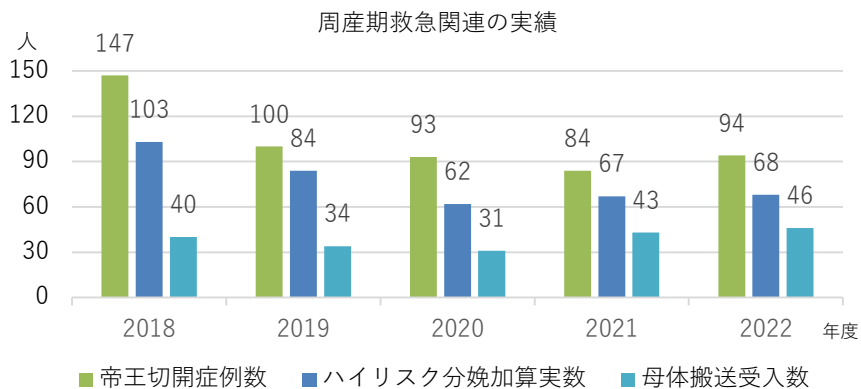


2022年 PICU入室患者(総数378名)  
※診療科問わず



### 周産期医療

- **地域周産期母子医療センターとして積極的に母体搬送を受け入れ、合併症のあるハイリスク妊婦も他科と連携することで妊娠・分娩管理が可能**



### へき地医療

- **医師が少ない地域の病院や診療所への医師派遣を実施**
- 診療支援実績（医師派遣） —  
阿蘇医療センター、天草市立河浦病院  
天草市立牛深市民病院、小国公立病院など

# 1. 熊本赤十字病院の課題

## 1) 高齢患者の急増に対する医療提供体制の整備

- 急速な高齢化による、疾病別医療需要の変化への対応  
(がん、脳血管疾患、心疾患、骨折、肺炎、併存症・合併症を有する患者)

## 2) 医療連携強化による病床確保と不応需解消

- 救急重症患者受入れのための病床確保
- 各専門診療科における受入体制の見直し
- 連携強化によるシームレスなフェーズ移行

## 3) 精神科医療ニーズへの対応

- 救命救急センターを中心とした、精神疾患を抱えた患者受入体制  
(認知症や抑うつ、小児科領域の精神的ストレス等)

## 4) 病院機能の拡充と災害対応機能の強化

- 画像や手術部門、総合血管センターを中心とした中央診療部門の拡充
- 基幹災害拠点病院として、十分な災害対応能力を備えたソフト・ハードの機能拡充
- サイバーセキュリティの更なる強化

## 5) 医療従事者の確保

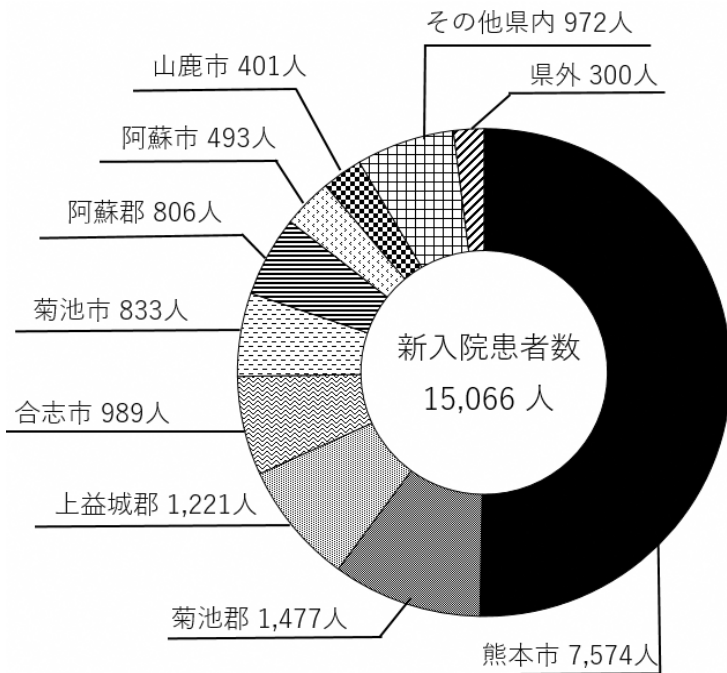
- 医師の働き方改革への対応だけでなく、少子高齢化によって生じる将来的な生産年齢人口の減少にも配慮し、各職種の人材確保及び育成を図る

# 2. 今後の方針

## 1) 高度急性期医療の提供

- 高齢者の増加と疾病構造の変化に対応し、総合救命救急センターとして、年齢、性別、疾患問わず全ての領域の救急重症患者を全県的に対応する
- 5疾病5事業を中心とした各領域の拠点病院として、手術や高度専門治療など、多くの医療資源を必要とする超急性期の患者に対応する

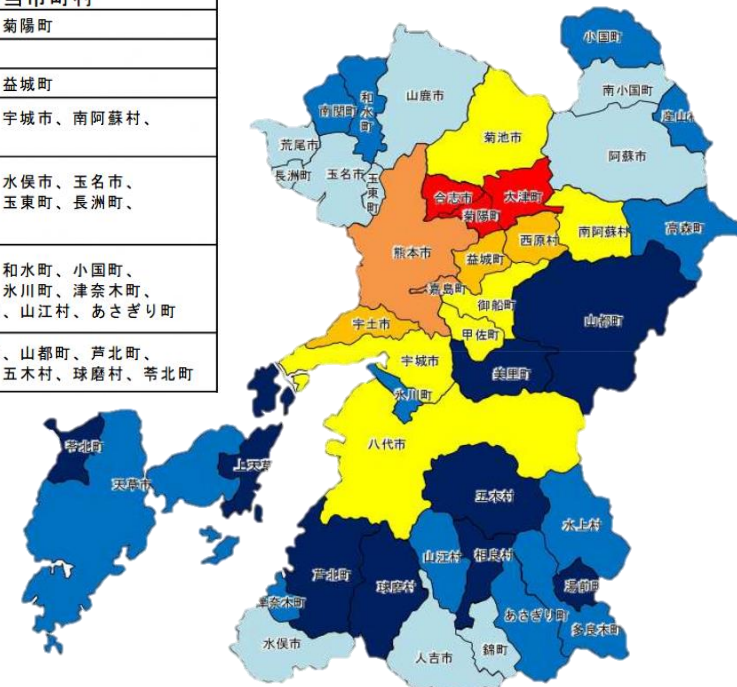
診療圏別\_新入院患者数



※数値は令和4年度実績

県内市町村の人口増減率(2015年を100とした場合の2045年の姿)

色	区分	該当市町村
赤	100超	合志市、大津町、菊陽町
オレンジ	90超~100以下	熊本市、嘉島町
黄	80超~90以下	宇土市、西原村、益城町
黄緑	70超~80以下	八代市、菊池市、宇城市、南阿蘇村、御船町、甲佐町
緑	60超~70以下	人吉市、荒尾市、水俣市、玉名市、山鹿市、阿蘇市、玉東町、長洲町、南小国町、錦町
青	50超~60以下	天草市、南関町、和水町、小国町、産山村、高森町、水川町、津奈木町、多良木町、水上村、山江村、あさぎり町
濃青	50以下	上天草市、美里町、山都町、芦北町、湯前町、相良村、五木村、球磨村、苓北町



※熊本県人口ビジョン(2021年3月改定)より

## 2. 今後の方針

### 2) 人材育成と確保

- 高度化する医療やニーズ、機能分化に則した地域医療を提供すべく、院内外での研修を強化し、県全体の医療レベルの底上げに貢献する（臨床研修指定病院、専門研修基幹病院 等）
- 高度専門医療を追求し、高いレベルで今ある最善の医療を提供する
- 特定行為看護師研修をはじめ、各職種の専門性を高めることでタスクシフトの推進やチーム医療の更なる強化を図る



## 2. 今後の方針

### 3) 災害救援の強化

- 災害時における超急性期のあらゆる疾患に対応するとともに、関係機関と連携するなど、基幹災害拠点病院の役割を果たす
- これまでの災害での経験を踏まえ、平時からの関係機関との連携や訓練の実施を通して、災害に強い地域づくりに貢献する



## 2. 今後の方針

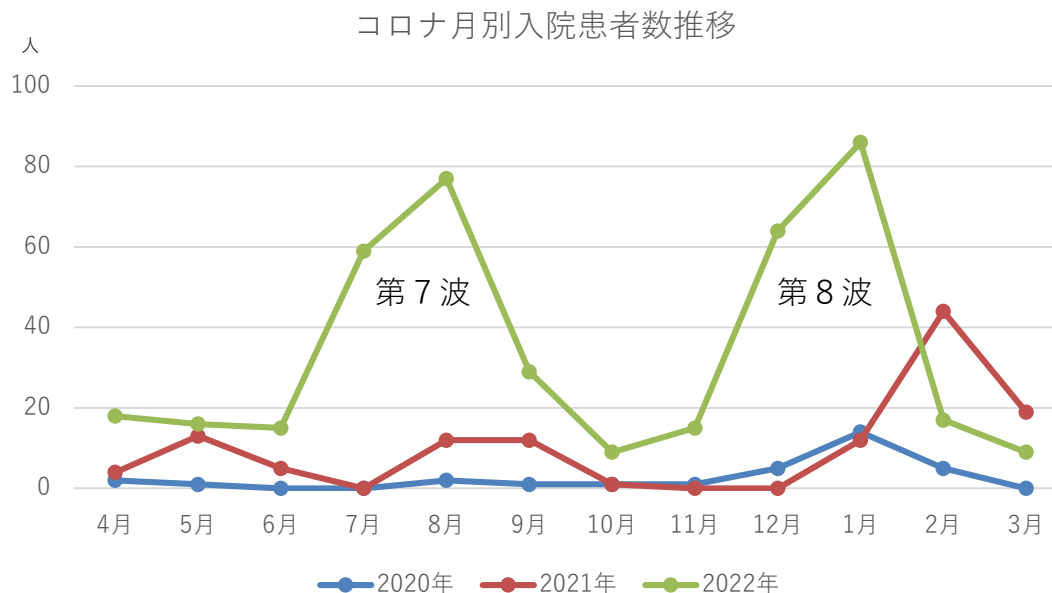
### 4) 新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症への対応

#### ■ 新興感染症患者の積極的な受け入れ

当院での治療を必要とする重症患者、小児・妊産婦を中心に受け入れを継続  
(入院受入医療機関としての確保病床数：5床)

#### ■ 救命救急センターにおける対応

救命救急センターにおいて、昼夜を問わず新興感染症患者の救急搬送事例等の受け入れを継続し、県内の三次救急医療機関としての役割を担う



## 2. 今後の方針

### 5) 地域医療支援病院の新たな責務について

#### 医師の少ない地域への支援

- **診療支援（医師派遣）** ※再掲  
熊本県のへき地医療の再構築に貢献できるよう、院内に「へき地医療支援センター」を開設し、医師派遣やへき地医療に携わる医師の研修プログラムを実施  
【派遣数】 令和4年度：延べ172名  
【派遣先】 阿蘇医療センター、天草市立河浦病院  
天草市立牛深市民病院、小国公立病院  
天草市立新和病院、芦北療育医療C  
くまもと県北病院、熊本セントラル病院

#### 新興感染症等に対する感染症医療の提供

- **感染症患者の積極的な受け入れ** ※再掲  
当院での治療を必要とする重症患者、小児・妊産婦を中心に受入可能な体制
- **感染症対策向上加算1病院としての役割**  
ICTを中心に新興感染症等への対策を検討し、自施設だけでなく、地域全体の感染症対策を支援する例）
  - ・他医療機関、診療所等からの相談対応
  - ・他施設との定期的なカンファレンス
  - ・新興感染症等を想定した訓練の実施 など

#### 地域需要に応じた医療提供

- **救急医療の最後の砦** ※再掲  
「断らない救急」を基本理念とし、すべての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる体制
- **地域の医療機関とのシームレスな連携**  
専門性の高い32診療科を有する総合病院として、紹介患者の受入はもとより、逆紹介を積極的に行うことで密な連携を図る
- **外国人患者への医療提供体制の強化**  
外資系企業の進出等による外国人労働者の増加に対し外国人患者の受入体制を強化

#### 災害時の医療提供

- **基幹災害拠点病院としての役割** ※再掲  
県内における災害時の拠点医療機関として、訓練の実施やDMAT要員等を育成
- **あらゆる事態への対応**  
自然災害だけでなく新興感染症やサイバー攻撃などいかなる事態にも対応できるよう、BCP（事業継続計画）の定期的な見直しを図る

### 3. 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### ① 4 機能ごとの病床のあり方

単位：床

病床機能	2023年(令和5年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	490	490	
急性期			
回復期			
慢性期			
その他			
合計	490	490	



### 3. 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### ② 診療科の見直し

	現時点 (2023年5月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、腎臓内科、糖尿病内科、リウマチ科 血液・腫瘍内科、精神腫瘍科、脳神経内科 呼吸器内科、消化器内科、循環器内科 小児科、外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科 整形外科、脳神経外科、心臓血管外科 小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科 産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科 リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科 歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科	同左	救命救急センターとしてあらゆる領域の疾患に対し、高い専門性をもって対応するため
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

### 3. 具体的な計画

#### (2) 数値目標

	現時点 (2023年5月時点)	2025年
① 病床稼働率	90.0% (93.2%) (2022年4月1日～2023年3月31日)	103.0%
② 紹介率	96.6% (2023年5月時点)	80.0%以上
③ 逆紹介率	126.5% (2023年5月時点)	100.0%以上

## 3. 具体的な計画

### (3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 1) 新入院患者の確保

- 救急、紹介による不応需解消のため、各診療科の受け入れ体制を見直す
- 地域医療機関との更なる連携強化により、紹介患者数の増加を図る

#### 2) 病床の確保

- 退院に向けた早期介入と連携により、早期退院を促す
- 患者状態に応じた適切なベッドコントロールにより、限られた病床を有効活用する

#### 3) 逆紹介の更なる推進

- 患者への適切な説明と他医療機関との連携強化により、在宅復帰を見据えた適切なタイミングでの回復期・慢性期病院への転院、術後フォローなど症状安定後のクリニック等への逆紹介を積極的に実施する

#### 4) 関係機関との信頼関係の向上

- コロナ禍で困難となっていた医療・介護施設・救急隊との定期的な意見交換会や症例検討会、医療技術・知識向上のための研修会を開催する

### 3. 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 医師の働き方改革の現状

救急医療体制の確保のため、以下の診療科については特定地域医療提供機関(B水準)として、医療機関勤務環境評価センターに申請を行っている状況にある。

###### A水準

内科、腎臓内科、糖尿病内科、リウマチ科  
血液・腫瘍内科、脳神経内科、呼吸器内科  
消化器内科、外科、呼吸器外科、整形外科  
乳腺内分泌外科、脳神経外科、心臓血管外科  
小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科  
産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科  
リハビリテーション科、放射線科、救急科  
歯科、歯科口腔外科、放射線治療科、  
精神腫瘍科、病理診断科

###### B水準（予定）

循環器内科、小児科

現状の救急医療体制を維持し続けるには、地域の医療機関の協力も含めた医師確保が必須となる。それに加えて、今後もタスクシフト・シェアを推し進めるとともに、各専門職が業務に専念できるよう医療DX等を活用し、勤務環境の改善を図ることとしたい。